

顧問のご指摘とご指摘に対する対応及び回答

NO.	顧問名	該当箇所	コメント	コメントへの対応及び回答
1	糸井顧問	要約書P2	2023年に予定されている噴気試験の対象となるのは生産井への転用が予定されている1本の調査井でのみ実施されるのでしょうか？あるいは複数の調査井で実施されるのでしょうか？	2023年の噴気試験で噴気を予定しているのは、ESN-1の1本のみです。
2	糸井顧問	要約書P17 表2-2-6-3	熱水の塩化物イオン濃度とシリカ濃度が表2-2-6-3に示してありますが、坑井から生産された熱水の値としてはきわめて低い値となっています。単位等の確認をお願いします。あるいは、想定される冷却水の値を表しているのでしょうか？	「補足説明資料1」に示すとおりです。
3	市川部会長	方法書 P2-14(16)	噴気試験の結果、フラッシュ発電を採用しない可能性はあるのでしょうか。	「補足説明資料2」に示すとおりです。
4	市川部会長	方法書 P4-13(255)	地上気象観測：2022年5月～8月の夏季調査と今後の3季調査を合わせて1年間の連続観測としている。年によって気象の変動があるので「手引」に沿って通年観測を検討して欲しい。	「補足説明資料3」に示すとおりです。
5	市川部会長	方法書 P4-13(255)	高層気象観測：夏季だけの計画であるが「手引」には「基本的には四季に実施」とある。また、専門家のご意見（312頁）にも「観測回数 of 妥当性を検討した方がよい」とある。四季の観測を行うか、一部を省略する場合は適切な理由を説明して欲しい。	「補足説明資料4」に示すとおりです。
6	市川部会長	方法書 P4-13(255)	硫化水素の評価の手法：「屋外作業等における作業環境管理に関するガイドライン」等との整合と記載されている。2021年12月にNEDO・電力中央研究所が「地熱発電所の冷却塔から排出される硫化水素の予測手法の基本的な考え方に関するガイドライン」を作成し、評価の基準について言及している。本ガイドラインに沿って、屋外作業等・・・ガイドラインに加えて、欧州空気質ガイドライン（世界保健機関）を明記すること。最近のアセス事例（かたつむり山、松川）を参考にするとよい。	御指摘のとおり「地熱発電所の冷却塔から排出される硫化水素の予測手法の基本的な考え方に関するガイドライン」（2021年12月、NEDO・電力中央研究所）の「評価基準（欧州空気質ガイドライン（世界保健機関）」についても記載することとし、今後の準備書において修正いたします。また、最近のアセス事例（かたつむり山、松川等）についても参考といたします。
7	水鳥顧問	方法書 P2-13(15) 図 2-2-5-1(2) 発電所の設備の配置計画の概要	調整池、沈砂池、ならびに仮設沈砂池から河川までの排水経路を図中に示してください。	「補足説明資料5」に示すとおりです。
8	水鳥顧問	方法書 P3-153(183) (1)河川、湖沼の利用状況	牛舎の沢取水堰及び新冷水取水堰の位置を地図上で示していただきたい。	「補足説明資料6」に示すとおりです。

顧問のご指摘とご指摘に対する対応及び回答

NO.	顧問名	該当箇所	コメント	コメントへの対応及び回答
9	水鳥顧問	方法書 P4-35(277) 図4-2-2-4 水環境の調査位置(水質:水の濁り)	① 雨水排水の河川への流入地点(所在は分かりませんが)付近にも調査地点を設けた方が良いのではないのでしょうか。 ② 調査地点W1は、白浜1号川との合流地点より上流側に設定していただきたい。	「補足説明資料7」に示すとおりです。
10	中尾顧問	方法書 P3-60(90)	温泉分布の現況について、開発前のバックグラウンド情報としての整理のため、各地点の温度、泉質、湧出形態などを、表にして提示したほうがよいと考えます。	(非公開)
11	中尾顧問	方法書 P3-68(98)	断層が確認されていない、とありますが、景観資源としてP3-135(165)(図3-1-6-1(2))に恵山断層があります。距離にして2km以内なので周辺に存在するということではないのでしょうか。また、断層がないと確認する図は、表層地質図のみならず、火山地質図なども総合的に参照すべきと考えます。	御指摘のとおり、断層については「表層地質図」以外の情報を含めることとし、今後の準備書において修正いたします。